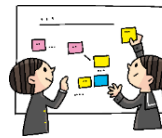


「京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～」 がスタートします

いよいよ令和5年度から、「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」(以下「学びのパスポート」)がスタートします。この調査では、児童生徒はより分かりやすい形で自身のこれまでの成長を確かめたり、CBT(Computer Based Testing: 1人1台の端末を用いた調査)の長所を生かして、解答をその日のうちに振り返ることで学習改善につなげたりすることができるようになります。



ここでは、この新しい調査「学びのパスポート」の特色と、よりよい分析や活用の進め方について紹介します。



「全国」と「京都府」、それぞれの調査を効果的に活用するために、まずはどのようなことに着目するとよいでしょうか。



2つの調査を効果的に活用するためには、それぞれの調査の目的や内容をつかんでおくことが大切です。以下に各調査の要項より要点を引用してお示します。

	全国学力・学習状況調査	学びのパスポート
目的	「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目指します。	「学びのパスポート」は、学習の実現状況及び児童生徒の学習環境や家庭における生活状況等の特徴や課題など、児童生徒の「認知能力の伸び」と「非認知能力の変容」を継続的に把握することができます。そして、その伸びや変容に影響を与える諸要因を客観的データに基づき分析・考察し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する教員の指導力等についての有用な情報を得ることにより、指導上の課題を明らかにして、授業改善を推進し、確かな学力をはぐくみます。
対象	小学校：小学校第6学年、 特別支援学校小学部第6学年 中学校：中学校第3学年、 特別支援学校中学部第3学年	小学校：小学校第4学年～第6学年、 特別支援学校小学部第4学年～第6学年 中学校：中学校第1学年～第3学年、 特別支援学校中学部第1学年～第3学年
内容	【令和5年度】 小学校：国語、算数、質問紙調査 中学校：国語、数学、英語、質問紙調査	小学校：国語、算数、質問紙調査 中学校：(1年)国語、数学、質問紙調査 (2,3年)国語、数学、英語、質問紙調査

2つの学力・学習状況調査を比較してみたいでしょうか。ここで特に着目したいところは、調査の目的です。それぞれの調査の目的を踏まえ、次のように整理してみます。

「全国学力・学習状況調査」を活用することで、学習指導要領の理念や目標、内容等に基づき個々の児童生徒や集団の学力・学習の状況を見取り、指導の充実に生かすことができます。

「学びのパスポート」を活用することで、認知能力の伸びと非認知能力の変容に基づく、個々の児童生徒や集団の学力の伸びと変容を見取り、指導の充実に生かすことができます。

それぞれの調査の特色を理解し、互いの長所を生かす視点で分析・活用のサイクルを構築することで、確かな学力の育成につなげましょう。



「学びのパスポート」は、従来の京都府学力診断テストと比べて、どのような特色があるのですか。



- (特色1) 児童生徒の認知能力の伸びについて、校種や学年を越えて捉えることができるようになります。
- (特色2) 認知能力と非認知能力を一体的に捉えて、児童生徒の学力実態を分析することができるようになります。
- (特色3) 解答の結果がすぐに分かるので、即時の指導に生かすことができます。

特色1

各設問に難易度を割り振ることで、正答率を比較するだけでなく、「どの難易度の問題を解く力があるか」という観点で教科の学力を測定することが可能です。この変化を経年で見取ることにより、児童生徒一人一人の認知能力の伸びを捉えることができます。

		小学校			中学校		
		第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
高	ステップ12						
	ステップ11						
	ステップ10						10-A
	ステップ9					10-C	
	ステップ8			8-B			
	ステップ7						
	ステップ6	6-A					
	ステップ5		7-B				
	ステップ4						
	ステップ3						
	ステップ2						
	ステップ1						

※児童生徒に返却する個人結果票の一部です。

小中連携の推進を軸に、キャリア・パスポートと合わせることで、校種や学年を越えて児童生徒の成長の様子を捉えることができます。

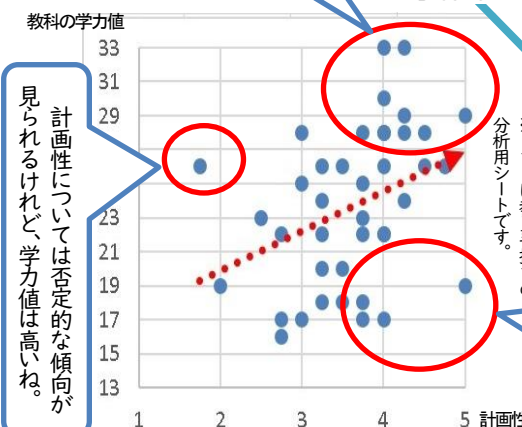
特色3

CBTの長所を生かして、即時にフィードバックされる結果を指導改善に効果的に活用することができます。タブレットの機能を用いて、文字サイズの拡大等の個別の対応も可能です。

特色2

計画性ということに対して肯定的に回答していて、学力値も高いね。

(例) 中学2年のある学級



見られるけれど、学力値は高いね。

学力の伸びをバーの位置で表しています。

肯定的に回答しているけれど、学力値は低いね。

(分析仮説1) 自己評価は高いが、実態はどうだろうか。
(分析仮説2) より効果的な計画の立て方について助言が必要かな。

教科に関する調査(縦軸)と質問調査(横軸)の状況から、「非認知能力に関連する調査(『主体的に学び考える力』や『多様な人とつながる力』等に基づく10項目)」と「学習方法等調査(『学習の方法』や『主体的・対話的で深い学びの経験』に基づく6～7項目)」に着目して実態を分析することができます。

Aさんはここでつまづいていたのか…。Bさんは授業では理解しきれていなかったところができているな。
【個別の結果の分析】

質問調査の結果から、～の傾向があるな。普段の様子は…だから、明日から〇〇を意識して指導していこう。【質問調査の活用】

Bさんは家庭学習に熱心に取り組んでいるし、提出物の内容も工夫しているのに、学力値には結びついていないな。明日、Bさんの学習方法や内容の理解度に注目してみよう。【学習方法への助言】

「学びのパスポート」は、小学校第4学年から中学校第3学年にかけての6年間の学びの足あと、成長の足あとを残していくものです。この調査を活用し、教育活動をさらに充実させましょう。次のページでは分析や活用の具体的事例についてお伝えします。